



しゃくなげ

長崎県社会教育主事等連絡協議会

会報 第51号

「挨拶

長崎県

社会教育主事等連絡協議会

会長 山口 尚子



令和7年度から長崎県社会教育主事等連絡協議会会長を拝命し、早1年が過ぎようとしています。

私自身は令和5年4月から社会教育に携わっていますが、それ以前は教育委員会事務局での勤務経験がありませんでした。そのため、最初は不安や戸惑いがあり、令和7年度から本協議会の会長を拝命するということで更なるプレッシャーも感じましたが、この1年間、多くの方々と連携を深め、共に歩みながら社会教育の発展に努めることができました。

した。心から感謝申し上げます。

7月に長崎県教育委員会と共催で開催した研修会では「夢に向かって挑戦し続ける力」という演題で電動車いすプロの秋山大輝さんにご講演いただきました。障害があっても仕事をして自立するため、夢を叶えるために常に明るく前向きな秋山さんのお話に刺激を受けるとともに、障害の有無にかかわらず誰もが学び続けることのできる環境づくりについて深く考えるきっかけになりました。

また、10月に長崎県教育委員会、長崎県社会教育委員連絡協議会と共催で開催した長崎県社会教育研究大会では、「つながりが創る豊かな社会教育」という大会テーマのもと、4つの分科会において様々な事例発表が行われ、全体会では静岡県地域づくりアドバイザーの小田圭介さんに

ご講演いただきました。講演では、つながりをつくるための「手段」をたくさん教えていただき、大人も子どもも必要以上に気負ったりせず、自然体で、ただ同じ時間を共有することで生まれる絆があり、その絆が地域の未来を支える土台になることについてわかりやすく教えてくださいました。「あいさつの前に『知り合う』がある」といった言葉は、参加された皆様の心に残った言葉の一つではなかったでしょうか。

さて、令和7年度は社会教育主事講習の現地研修が大村市で開催され、15名の受講生をお迎えしました。約70名いる受講者のうち半数くらいの方が、複数ある研修地の中で本市を希望され、熾烈な戦い(?)を経て本市にいらっしやったことを事前に聞き、受け入れる側もハードルが上がった中での研修スタートとな

りました。1日目は本市の社会教育事業等の説明の後に子ども科学館の視察、2日目はフオレストアドベンチャー体験、郷土料理(大村寿司)作り、松原宿及びミライオン図書館の視察、3日目は研修のまとめを行った後に英語学習放課後子ども教室の視察と当該教室の運営に携わる大学生との意見交流会を行ってもらいました。夏の暑さ厳しい中での研修でしたが、受講生からは施設運営や各事業の取組に対する質問が多くなされ、研修に対する能動的な姿勢を拝見することができました。

受け入れにあたっては長崎県生涯学習課の皆様を支えていただき、本市職員にとってもよい経験、よい学びとなりました。心から感謝申し上げます。

話は戻りますが、長崎県社会教育主事等連絡協議会規約には「会員の研修ならびに親

睦と協力によって社会教育の振興を図ることを目的とする」とあります。今後も、これまでの経験を糧に、皆様とともに社会教育の発展に寄与できるように尽力してまいります。来年度も、引き続きご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

「ココロねっこ運動」のアップデートに向けて

長崎県こども政策局

こども未来課

地域子育て推進班 菅 康弘

8月末から、

県青少年育成

県民会議が主

催する「ココロ

ねっこ指導員等

講習会」が行われまし

た。この講習会は、ココロねっ

こ運動を地域に根付かせてい

くために、推進の核となる指

導員や市町の関係者の方々と



運動推進に対する方針を確認したり、各地での取組について情報を共有したりするものです。今年度も、県内12の会場を約2か月に亘って巡回しました。

この講習会を通して感じたのは、集まっていたいた方々の「こどもたちのために」という使命感や情熱、こどもや地域への深い愛情などでした。指導員の方々からは、「こどもが、『おじちゃんありがとう！またやってね』と言ってくれるのが嬉しい」「大人になっても、ふるさとのことを思い出してほしい」といった、活動を通じた思いをお聞きすることができました。長年、それぞれの地域において、運動を継続していただいた皆様方に、頭が下がる思いでした。

しかし、これから5年先・10年先を考えると、懸念されるお話もたくさんありました。地域でこどもの姿を見かけな

くなってきたこと、地域行事がコロナ禍以降にますます衰退したこと、地域と学校の連携が難しくなり、こどもとのつながりが薄くなっていることといったご意見が多く、会で聞かれました。特に、運動に長年かかわっていたいた方々から次の世代の方々へのバトンタッチがまだうまく進んでいないという現状は、切実な課題といえるものでした。

さて、ココロねっこ運動が果たしてきた役割は、地域のこどもは地域で育てる活動の旗印となることでした。このことは、これからも変わりませんが、実際に、こどもたちは、地域の大人に対して、どのような思いをもっているのでしょうか。そんな疑問に対し、大学生の声を聴く機会がありました。その中で出てきたのが、次のような感謝の思いでした。
・登下校のときに、毎日いてくれた。「いってらっしゃい」

「おかえり」などいつも声をかけてくれ、安心できた。公民館に勉強をしに行った「がんばってね」と声をかけてもらい、嬉しかった。その他にも、地域の清掃のこと、祭りでの指導のこと、農業体験のこと、読み聞かせのことなど、たくさんの感謝の思いでした。学生として地域を離れた今でも、こども時代の温かい思いを抱いていることがわかりました。改めて、コロナ禍つこ運動を継続してきた成果が、こどもや若者の心の中に残っていることを感じました。

コロナ禍つこ運動は、来年度、25周年を迎えます。これまでの取組の積み重ねにより、確かな基盤が地域にあります。それを活かしながら、真の「こどもまんなか社会」の実現に寄与する取組へとアップグレードしていく必要があります。特に、こどもに向き合う大人

自身が、こどもを見る目に歪みや偏見がないか、言動に誤魔化しがないかなど「あり方」を問い直す契機にする。そして、新たな行動指針等も示しながら、今の時代にあつた運動へ歩みを進めていく予定です。そのために、社会教育主事の皆様方の力が必要です。これから一層のお力添えと、確かな連携をお願いできれば幸いです。

活動報告

長崎県社会教育支援

「草社の会」

副会長・事務局長 武次 寛

平成23年5月に結成し、15年を経過した「草社の会」は、これまで県内市町の社会教育の応援団として、役割を果たすべく活動が続けてきました。令和7年度の活動を報告します。

まず、活動のメインである

研修会（主催・共催）は次のとおりです。

①「春季研修会」

4月19日(土)午後
県立長崎図書館
郷土資料センター

●実践発表（2事例）

- ・佐世保市西地区自治協議会
- ・五島日本語学校

●グループ・トークキング

●参加者50名（対象…会員）

②「夏季研修会」

9月6日(土)午後
諫早市高城会館

●実践発表（3事例）

- ・諫早国際交流センター
- ・長田中おにぎり食堂ボランティア

●グループ・トークキング

●参加者50名（会員及び県央地域社会教育関係者ほか）

③「県社会教育主事等協議会

- ・県央ブロック研修会」

10月8日(木)午後

諫早図書館視聴覚ホール

●実践発表（諫早市中央公民館講座）

障がい者と健常者が共に学び・活動できる講座の実践事例紹介と指導助言

●グループ・トークキング

●参加者32名（会員及び諫早市・大村市社会教育関係者）

④「南島原市 地域の力を考える集い」

1月17日(土)午後
ありえコレジヨホール

●実践発表（布津地区地域学校協働本部の活動について）

●講演「協働を想う」CSからSCへ」

●講師…江頭 明文 氏

●参加者74名（会員及び南島原市学校教育・社会教育関係者ほか）

⑤「第4回地域づくり・人づくり・つながりづくりフォーラム in 佐世保」

2月7日(土)午後
清水地区コミセン

● フォークダンスストーリーキング
● 実践発表（4事例）

- ・ 佐世保西高校生の探求活動
- ・ はなたか祭り実行員会
- ・ 吉井地区コミセン「がんば吉井」

● 猪調小学校CSの浸透
● 4つの実践発表ブースに分かれての対話

● 総括（草社の会）

● 参加者79名（会員及び佐世保市学校教育・社会教育関係者ほか一般市民）

⑥「第2回つながりづくりフォーラム in 東彼」

テーマ「読書の力／本にふれる、文字に親しむ」

2月14日（土）午後

東彼杵町教育センター

● 講演「次代を生きる子どもたちを育むために」

講師・池田 浩 氏

● 講座 県生涯学習課県民学習班による「子ども電子メディア利用ほか」 講義とグループ・トークキング

● 読書ボランティアグループ2グループによる活動紹介と紙芝居実演

● 総括（草社の会）

● 参加者61名（会員及び東彼杵郡3町の社会教育関係者・一般町民ほか）

活動は、研修会開催のほか県教委主催等の研修会・大会等へ積極的な参加に努めています。また、学校教育や社会教育関係機関やその他各種機関等からの講師派遣に応じています。

現在の会員数は125名（令和8年2月末）で、うち7名が県外の会員です。

年4回の会報発行を行っており、県内の市町教委や県内外の社会教育関係者等に発送するなど活動の情報提供に努めています。また、役員会議を毎月1回長崎市内で開催していますが、活動の推進をさらに図るため、オンラインで参

加できるように県北・県央・県南の各地域に役員を配置できるように考えています。

各地区ブロックだより

県央ブロック

（諫早市・大村市）

共生社会における生涯学習 ～みんなで築く～

諫早市教育委員会

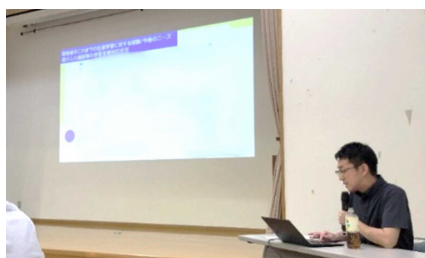
生涯学習課 山下 美喜夫

今回の研修会は、「共生社会における生涯学習～みんなで築いて、みんなで築く～」をテーマに開催し、大村市・諫早市の社会教育関係者をはじめ、長崎県教育庁生涯学習課の皆様など、32名にご参加いただきました。

開会行事では、「草社の会」辻川会長よりご挨拶をいただき、本研修の趣旨と期待が共

有されました。続いて、諫早市中央公民館の江口社会教育指導員が「共生社会に向けた諫早市中央公民館講座の実践」と題し、2年間にわたり継続して取り組んできた講座の成果と課題を発表しました。

その後、特別支援教育を専門とし、海外の障害者教育にも造詣の深い長崎大学教育学部准教授の石川衣紀氏を講師にお迎えし、江口指導員の発表への指導助言とともに、国内外の動向についてご講話いただきました。



【指導助言】
長崎大学教育学部准教授
石川衣紀 氏

文部科学省による障害者の生涯学習に関する調査結果を

踏まえ、「需要がないように見えるのは、情報や機会に触れる場が少ないことも一因である」との指摘がありました。学校卒業後、生活が家庭と事業所中心となり、公民館や生涯学習の情報が十分に届いていない現状があること、情報が必要そのものも生まれていくことなど、示唆に富むお話をしました。また、今後の公民館には、講座の企画段階から当事者とともに考え、潜在的なニーズを丁寧に掘り起こしていく姿勢が求められるとの提言もいただきました。中央公民館の実践を踏まえ、「公民館は誰かと誰かを出会わせることができる『港』のような存在である」との言葉が紹介され、その意義を改めて実感する機会となりました。

休憩後は、「日常を見つめて、自分に気づこう」をテーマに、ながさきファミリープログラムの手法を用いたグループワ

ークを実施しました。参加者は具体的な生活場面を設定し、関わっている人や今後つながり得る人を書き出しながら、誰もがよりよく暮らすために必要な配慮や行動について意見を交わしました。



グループワークの様子

参加者からは、「当たり前と
思っていた日常が、人によつてはそうではないと気づいた」「負担にならないおせっかいが地域を支えていると感じた」「多くの人が温かく子どもや家庭を見守っていることに感謝したい」などの感想が寄せられました。

本研修会を通して、みんなが住みよい暮らしをみんなで築いていこうという思いが一層高まる、有意義な時間となりました。来年度は大村市が主幹となり研修会を実施します。今後も両市が連携し、より充実した研修会となるよう取り組んでいきます。

佐世保・北松ブロック

(佐世保市・小値賀町・佐々町)

「地域づくり・人づくり・つながりづくりフォーラム」について

佐世保市教育委員会

社会教育課 迎 義孝

令和8年2月7日、清水地区コミュニティセンターにて、第4回となる「地域づくり・人づくり・つながりづくりフォーラム」が、佐世保市社会教育委員有志の会、長崎県社会教育支援「草社の会」、社会教育士等ネットワークながさきと、

市教委の共催により開催され、市内外から約80名の多様な立場の参加者が集いました。

このフォーラムは、現代における個人の成長と地域社会の発展に重要な意義と役割を社会教育が担っているとの考えのもと、地域づくり・人づくり・つながりづくりの実践者が集い、課題を共有し、互いの学びの成果を生かしながら、「誰一人取り残さない持続可能なまちづくり」についてみんなで考えるという位置づけで開催しました。

開会あいさつに続き、社会教育士ネットワークながさきの宮本隆宏氏による参加者全員でのトークフォークダンスの体験型研修では、「対話の重要性」を学び、相手の言葉を遮らずに聴くこと、沈黙を恐れず受け止めること、そして相手の考えを否定せず互いの存在を尊重しながら関係を築くことの大切さを体感しました。

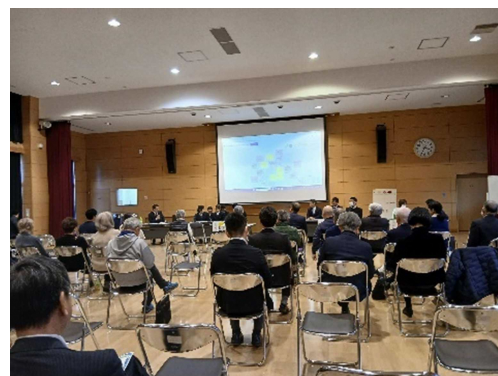
続いて、社会教育士の公文拓馬氏の進行のもと、4つの団体からそれぞれの地域で積み重ねてきた取り組みの実践発表がありました。

まず、『佐世保西高校』の生徒7名から、教員不足という社会課題に向き合い、中学数学の苦手意識を軽減する「未来を照らす教育アイテム」を開発した探究活動の発表がありました。チームメンバー全員が学校教員になることを目標にしており、いろんなことに挑戦し、つまずいてもあきらめない子どもを育てたいという思いも語ってくれました。

治会が連携し、子どもを中心に据えた地域づくりを進め子ども自身もボランティアとして運営に関わっているのとこのことでした。



『吉井地区コミュニティセンター』での主催講座では、「吉井大好きっ子」を育む、中学1年生を対象とした地域課題解決講座「がんばる吉井」の実践の紹介がありました。中学生が2日間に渡って地域のために活動している吉井地区自治協議会の皆さんの話を聞き、ワークショップ等で議論し、



発表する実践を展開されており、中学生は地域に関与する意欲を養い、大人は子どもから活力を得ているという言葉が印象的でした。

『猪調小学校』の校長先生からは、2小学校・1中学校で設立された江迎地区コミュニティ・スクールの歩みが語られました。学校運営協議会の会長さんが職員会議で「一緒に子どもを育てましょう」と宣言されたのを契機に、地域と学校、足し算ではなく、合わせ算で力を発揮し始めた

という報告は、地域と学校の協働の1つのモデルを示していただきました。

その後、全体対話の時間では、「草社の会」の池田浩氏の司会のもと、参加者からの質問に対して実践発表者が答え、次の個別対話に繋がる時間となりました。そして、個別対話の時間では、実践発表をいただいた4つの団体のブースに分かれて、参加者は希望するブースを選んで参加する質疑応答と対話が行われ、実践活動やそれぞれが持っている課題が深掘りされました。

最後に本フォーラムのまとめとして、「草社の会」棕本博志氏から、「社会教育は人づくり、つながりづくりを経て地域づくりへ反映される。」「わくわく、どきどきを大事に、人とのつながりをつくることが素敵な地域へとなっていく。」と総括いただきました。今回のフォーラムを通して、

地域づくり・人づくり・つながりづくりは決して特別な誰かが担うものではなく、地域に生きる一人ひとりの想いと行動の積み重ねによって形づくられるものだと思えて感じました。



東彼ブロック

(東彼杵町・川棚町・波佐見町)

「令和7年度東彼杵郡社会教育委員連絡協議会研修会」

川棚町教育委員会

社会教育係 一ノ瀬 正章

令和7年6月25日(木)に開催しました『令和7年度東彼杵郡社会教育委員連絡協議会研修会』について報告いたします。

本研修会は、東彼杵郡内3町の社会教育委員を対象に、委員の職務や役割の重要性の共有と、意識及び資質の向上、質の高い活動の実践を目的として年に1度開催しています。今回は講話と音楽鑑賞の2部構成で実施しました。

はじめに、第1部の講話では、佐世保市社会教育委員長の岩崎勢智子様をお招きして、『自ら行動する社会教育委員とは？共有しましょう』をテーマに佐世保市社会教育委員の活動や、ご自身の教員時代の経験を踏まえて現在取り組まれている事項について話がありました。

佐世保市社会教育委員は、幼稚園・小学校・中学校・自治会・民生児童委員の各代表、学

識経験者として大学・短大の教授やメディア安全指導員の総勢9名で活動されています。年に1回は教育委員との合同研修会を開催し、子どもに関わる諸問題に関する協議や情報共有が図られています。

令和5年度からは社会教育フォーラムを開催し、PTAや自治会の取り組み、高校生による探究活動の発表など有意義な取り組みがなされています。今年度は研修や実践発表に加え、学び続ける(対話のある)地域育成のための機会を創出することを目的に、参加者同士の対話コーナーが設けられています。変化が激しく予測困難な時代を生き抜いていく力を大人も子どもも身につけていけるよう、今後も社会教育を基盤とした地域づくりを実現していきたいと話がありました。

なお、岩崎氏が佐世保市教育委員会の嘱託職員として勤

務されていた際に発行されていた『家庭教育つうしん』共育しましょう!』について紹介があり、全52号がまとめられた冊子を郡内3町の教育委員会に寄贈していただきました。

次に、第2部の音楽鑑賞では、視覚障がいと知的障がいのある掛屋 剛志さんと、剛志さんの父 孝志さんをお招きし、剛志さんによるピアノ演奏と歌唱を披露していただきました。剛志さんは生まれつき障がいがありながらも幼少の頃から音楽の才能を発揮し、障害者コンサートでの全国大会では作曲家の平尾昌晃氏から審査員特別賞を受賞するなど高く評価されています。

父の孝志さんからは、剛志さんが大好きな音楽を通して多くの人に喜んでいただくことで剛志さんも喜びを感じていると話があり、剛志さんの演奏と透き通った優しい歌声に参加者は魅了されました。

このような学びを通して見識を深め、今後も東彼杵郡内3町が互いに切磋琢磨しながら、社会教育の充実・発展を図っていききたいと思います。

島原半島ブロック

(島原市・雲仙市・南島原市)

「島原半島ブロック研修会」

島原市教育委員会

生涯学習課 城臺 隆聡

令和7年度島原半島社会教育連絡協議会・役員会・総会・研修会・各部会を令和7年8月5日(火)に開催しました。

研修会では、長崎県社会教育支援「草社の会」顧問である池田浩先生から「地域課題解決における生涯学習行政の役割」について講話をいただきました。講話の中で、生涯学習行政の責任と役割は「次代を生きる人の育ちを支え、人々がつながり豊かに暮らせる地域

を支える」ことであると強調されました。生涯学習の場はいつでも、どこでも、誰にでも開かれなければならないと理解しました。さらに、少子高齢

化の進展や地域コミュニティの二極化といった具体的な課題も示されました。その状況下で、地域全体が手を取り合い、学び合う場づくりや支援体制の構築が重要であることを実感しました。加えて、子育て支援における親支援やコミュニティスクールの実践例を通じて、地域内の連携・協働の成果を紹介されました。人、組織をつなげるコーディネート役の必要性も認識しました。社会教育が地域の未来を支えるためには、単に学習機会を提供するだけでなく、住民のやる気や参加意識を高め、互助の精神を醸成することが重要だと感じています。今回の講話を通じて、地域の行政職員として、地域課題を正確に

把握し、連携・協働の促進を積極的に行い、住民が主体的に参加し支え合う地域づくりに尽力しようと決意を新たにしました。



また、研修会後は、総会を行いました。昨年度の事業報告とともに、今年度の事業計画などについて話し合いました。島原半島3市の取り組みについて互いに学び合いました。

総会後は、社会教育部会、公民館部会と文化財部会に分かれて各市の懸案事項について協議を行いました。



社会教育部会では、令和7年度国民文化祭の各市実施行事の紹介や協力体制の確認を行いました。

公民館部会では、市立公民館の市外料金の設定方法や、申請時間前後の利用など、主に貸館についての意見交換を行いました。

文化財部会では、各市が抱える現状と課題について協議がなされました。部会で協議された内容は、持ち帰って参考にするべきものが数多くありました。

今後とも3市担当者が連携し、島原半島の社会教育の発展のため、力を合わせていくことを再確認できた会でした。

五島ブロック

(五島市・新上五島町)

「2年目を迎えた『五島市中学生国外体験学習事業』」

五島市教育委員会

教育総務課 鍋内 千亜喜

五島市沖の浮体式洋上風力発電事業に伴い、発電事業者が地域振興等を目的に設置した「五島市洋上風車夢基金」等を財源として、令和6年度より実施している「五島市中学生国外体験学習事業」を紹介します。

この事業は、グローバル社会が進んだ現代社会において中学生が今後の進路・職業選択を行う上で、国外の状況を自分の目や耳で感じ体験する

ことでキャリア教育を行うことを目的として実施するもので、今年度は、中学2・3年生12名、8月4日から10日まで5泊7日の日程でシンガポールを研修地に中学生国外体験学習を実施しました。

様々な人種の方が暮らす多民族・多文化の国であり、物流や交通、金融面等においてアジアのハブとも言われるシンガポールで研修・学習が実施できたことは子どもたちにとって大変良い刺激になったものと考えています。

体験学習としては、現地大学生とのB&SプログラムやSDGsプログラム、ホームステイなどを行いました。大学生との交流では、子どもたちが訪れたい場所を事前に調べ、それを英語で大学生に伝え、また、ホームステイではホストファミリー宅に3泊し、家族の生活を体験しました。日本語が通じない環境で、子

どもたちが自身で考えながらコミュニケーションを図る活動は日本では経験できない貴重な体験となりました。

さらに、水などの資源が乏しいシンガポールならではのSDGsに向けた取組は、日本とは違った考え方や問題へのアプローチを考えるいい機会となりました。

このような体験は、子どもたちにとつて心に残るものとなり、学校の授業では味わえない活きた教材になったと思います。



本研修では、市内の違う中学校の参加者との交流や国外で大学生やホストファミリーとのコミュニケーションについて、最初は戸惑いや不安があつたようですが、日ごとに協力して物事に取り組む姿勢が見られたり、積極的に自分から話しかける等、子どもたちが大きな変化が見られました。今回の研修で得たこと、学んだことを活かし、今後の学校生活や進路決定につなげてほしいと思います。

事後の保護者へのアンケートにおいても、多くの方から子どもの成長に関する感想をいただきました。

青少年健全育成の面からも物事を考える視野をさらに広げることができる体験学習として、今後も中学生国外体験学習事業を継続して実施する予定です。

令和7年度 長崎県社会教育研究大会

【大会テーマ】

つながりが創る豊かな社会教育

分科会報告

長崎・西海・西彼ブロック

(長崎市・西海市・長与町・時津町)

長崎市教育委員会

生涯学習企画課 西依 貴志

【発表テーマ】

地域づくり

〈指導助言者〉

長崎県教育庁 生涯学習課

係長 小島 佐予子

〈事例発表者〉

株式会社つくるのわデザイン

代表取締役 岩本 論

〈司会者・会場責任者〉
西海市教育委員会

社会教育課 白濱 義晴

〈記録者〉

長与町教育委員会

生涯学習課 平井 尚輝

【事例発表】

「つながりが創る豊かな地域づくり」

岩本氏は、自身の原体験である環境問題への関心や震災ボランティアを経て、コミュニケーションデザインの道へ進んだ。「自分たちの地域は自分たちで良くする」という主体的な活動を支援するため、長崎市斜面地での「空き家活用」と

「坂道留学」の実践を紹介した。学生時代、車も入らない斜面地の空き家を自ら借り受け、DIYで改修してシェアハウス「つくる邸」を開設。「月一オープン」と称して地域住民に開放したり、七草粥作りなどの伝統行事に参加したりすることで、住民との信頼関係を構築し、現在では周辺の空き家4軒を再生するに至っている。

また、地域の担い手不足解消と若者の学びをマッチングさせる「坂道留学」についても詳述された。これは全国の大学生が夏休みの2週間、坂の町に住み込みで生活するプログラムである。参加学生は「精霊流し」の船作り等を通して地域住民と深く交流し、親元を離れた生活の中で「日常のありがたみ」を再確認する。一方、地域側も若者の参加により行事が活性化するという「Win-Win」の関係が

構築されている。

岩本氏は、「家に住むのではなく、地域に暮らす」という意識を持つことが重要であり、地域資源を外部に開くことが若者の自己肯定感向上と地域の課題解決につながる。

【質疑応答】

Q：県外からの学生募集や、地域住民の受け入れ意識はどう変えたか。

A：SNSの活用に加え、地域と学生の間立つ「コーディネートター」が重要である。地域側の「労働力が欲しい」という要望と、学生の「地域を知りたい」という意欲を翻訳して調整し、摩擦を生まないようマッチングさせることが持続の鍵である。

【研究討議】

「つながるために地域でできること」をテーマにグループ協議を行った。公民館や空き家といった「場所」の有効活

用や、若者や子どもたちの力を地域活動に取り入れるアイデアなどが活発に出され、意識的につながりを作る方策が共有された。

【指導助言】

人口減少やAI化など社会が変化する中、個人の力だけでは解決できない課題が増えており、「つながり」が不可欠である。

岩本氏の実践から、①住民主体であること、②単なる場所ではなく「暮らし」を提供していること、③SNS等で地域の魅力を発信していること、④地域と若者をつなぐコーディネート機能、の4点が重要であることを学んだ。体験を通じた感情の共有が課題解決の出发点となり、人が集い、行動することによってのみ生まれる「つながり」こそが、これからの地域づくりの土台になる。

平戸・松浦ブロック

(平戸市・松浦市)

【発表テーマ】

地域子ども教室の推進

〈指導助言者〉

長崎県教育庁 生涯学習課

課長補佐 稲本 信也

〈事例発表者〉

平戸市中部地区

子育て支援団体連絡協議会

原田 仁志

末吉 園美

松田 隆也

〈司会者〉

平戸市教育委員会

生涯学習課 神田 誉

〈記録者〉

松浦市教育委員会

生涯学習課 田代 純子

〈会場責任者〉

松浦市教育委員会

生涯学習課 橋本 淳子

【事例発表】

「持続可能な子どもたちの活動拠点づくり ～地域をつながりの大切さ～」

中部地区子育て支援団体連絡協議会は、不審者事案の発生による子供たちの安全確保と地域ぐるみの防犯体制づくりが大きなきっかけとなり、世代間を越えた連携のもと、「地域の子どもは地域で守り育てよう」という合言葉でPTA、区長会などの16団体で構成する組織を平成18年に立ち上げ活動をしてきた。その後「まちづくり運営協議会」が発足し、まちづくり運営協議会の健康福祉部に属する形で、同じ団体名で活動を継続している。

主な活動内容としては、7月の子ども劇場の開催、8月から2月にかけての公民館土曜学習事業、10月の通学合宿の支援活動、11月の越南祭りにおける、餅つきとオリエン

テーリング大会を展開している。

その他にも、老人会などの世代間交流を目的として軽スポーツ体験や植栽体験、農作業体験、施設見学、登山体験、ものづくり体験なども実施している。

今後の課題や展開としては、運営スタッフや指導者の掘り起こしが急務と捉え、ボランティア活動に協力してくれる人を今後も募っていきたい。子育て支援は、持続可能な地域社会を作ることと同じである。まちづくり運営協議会の支援のもと、青少年の健全育成事業として位置づけ、各種団体や学校、保護者と連携し、活動を継続していきたい。

【質疑応答】

Q：当初の目的である防犯体制の必要性は達成できたか。
A：老人会等いろんな団体のおかげで見守りができ、目的は達成できた。

Q: 中学生などボランティアとしての協力は。

A: 声かけで協力してくれる。高校のボランティア部などは、学校に相談し協力をいただいている。

Q: ボランティアの勧誘方法は。

A: 大人のスポーツ活動において、年代別にチームリーダーのような役割の方に声をかけている。

Q: 今まで行われていた神社等の秋祭りで活動する人が少なくなっているが、伝統行事における地域の状況は。

A: 悩みは同じ。平戸ジャンガラでは隣町と合併というところもある。体験学習では、おくんちの下りなどに参加させている。

【研究討議】

4つのグループに分かれ、「地域のつながり」を維持・継続していくために必要な項目について協議し、次のような

意見があった。

- ・ボランティアに協力してくれる人を探すには、大人の学びの場での声かけや学校とのつながりを持つて学校へ相談する。

- ・単独の町内会で実施しているものを他の自治会と一緒に進めると、それなりの予算やスタッフも確保できるのではない。

- ・自治会での催しに、子供たちを参画させると保護者が付いてくるので、ボランティアを探すことができるのではない。

- ・協力してもらうには、ボランティアにどんなことをほしいかと広く知っていただくことが大事である。

【指導助言】

今回の事例発表から学ばせていただいたことを3つ。

1つ目は、連絡協議会の立ち上げから目標の共有があった。目標をそれぞれの団体で

共有することで、地域を繋ぐプラットフォームがしつかりとできていた。目標を共有しながら活動することで、それぞれに主体性を持ち、それが多様な活動の展開に繋がり、持続可能になったことに敬意を表する。

2つ目は、実際に取り組まれた活動について、子供たち、住民、みんなの笑顔を想像しながら、講座や越南まつりが企画されていることに意味があった。大人と子供が、大人同士が、子供同士が繋がりやすい仕掛けがあった。活動目標とともに活動を通じた人材育成の目標を明確に位置づけて、体験活動を仕組んでいく大切さを改めて実感した。

3つ目は、一緒に活動できて楽しい、また参加したい、ここにいていいんだと実感できていることを引き出せていることが、未来をつくる子供たちの健やかな人材育成に繋が

っているっていうことを感じた。出番づくりが、人づくり、地域づくりに直結するものだということを学ばせていただいた。

地域の中での架け橋であるコーディネーターの方々が、目標や課題を共有しながら、多様な繋がりを作っていく活動は、本大会のテーマであり、繋がりがつくる豊かな社会教育に直結する内容だった。



老岐・対馬ブロック

(老岐市・対馬市)

【発表テーマ】

地域とのつながり

〈指導助言者〉

長崎県教育庁 生涯学習課

指導主事 峯脇 敏郎

〈事例発表者〉

対馬市社会教育委員

多田 侑加

〈会場責任者〉

老岐市教育委員会

生涯学習班 村田 信夫

〈司会者〉

老岐市教育委員会

生涯学習班 長田 大河

〈記録者〉

対馬市教育委員会

生涯学習課 杉村 修一

【事例発表】

「歌声でつなぐ 地域の絆」

「合唱団体エバーグリーン」は、対馬の中央部に位置する

峰町で活動している。

名前の由来は、「対馬の自然豊かな緑の木々のように、長く続くグループでありたい」との思いが込められている。

2019年7月結成。結成のきっかけは、前代表が峰町（対馬市で一番人口が少ない町）でもみんなが集まって楽しめるグループがあつたらよいという思いで、学生時代の恩師や、近隣でピアノ教室を開いている先生に指導・伴奏を依頼したことがきっかけ。メンバーは、8人からスタートし、現在13人。月に2回、地元である峰地区公民館で練習している。

メンバーは、峰町、隣町である豊玉町の方で構成。Uターン、Iターン者が多い。20代から70代と年齢層が広い。年間のスケジュールとしては、大きく2つで、10月に会される地元の文化祭と、2月に市内のコーラスグループ等

が一同に会し開催される「島の合唱祭」となっている。

今回、発表を行う上でメンバーにアンケートをとった。

「参加してよかったことは」

との問いに「毎回楽しさ」「仲間ができた」「楽しさ・やりがいを感じる」との問いに「音がとれるようになってきたとき」「歌っているときにかく楽しい」「グループの魅力は」との問いに「家族のようにあたたかい」「笑いがあるところ」といった声が聞かれた。

活動を通じた自身の変化として、「世代を超えたつながりを感じられた」「地域の人がから楽しみにしてもらえるところ」とによる大きなやりがいを感じることができた。

今後の目標としては、発表の場を増やしていきたいこと、誰でも一緒に楽しめるコーラスグループでありたいと考えている。子どもや男性も入ってくれたらうれしい。

同じ趣味の仲間の集まりだが、分科会のテーマである「地域とのつながり」を作っているのではと考える。

【質疑・応答】

Q:メンバー募集の方法・公民館との関係・どういった歌を歌っているか。

A:募集活動は特に行っておらず、現メンバーの呼びかけのみ。公民館との関係は現在のところ良好。現在「シヤボン玉」「小さい秋みつけた」「里の秋」など、みんなが知っている曲、日本語以外の難しい曲にもチャレンジしている。



【研究協議】

4班に分かれ、分科会テーマである「地域とのつながり」について、各地区の実状や課題などを共有し、熟議した。

【指導助言】

・「地域や世代を超えたつながりを生み出している」
20代から70代と幅広い世代が、歌の力がつながりをつくるきっかけとなっている。
Iターン・Uターン者といった、地域に入りづらい方も受け入れている。
・「地域人材の発掘と新しい参加の形によるつながりを生み出している」
地域には「何かのスペシャリスト」がいるものである。そういった人材を活かし活動されているということに大きな価値があり、また、自己肯定感、生き甲斐の向上につながっている。

各ブロック研修活動状況一覧

●長崎・西彼・西海ブロック

「つながりと地域づくり」をテーマとした講演と演習

日時：令和8年3月16日(月)

13時30分～16時00分

場所：時津町コスモス会館

●県央ブロック

令和7年度 社会教育主事等連絡協議会 県央ブロック研修会「共生社会における生涯学習～みんなで気づいて、みんなで築く～」

日時：令和7年10月8日(水)
13時30分～16時45分

場所：諫早市立諫早図書館
2階 視聴覚ホール

●佐世保・北松ブロック

第4回地域づくり・人づくり・つながりづくりフォーラム（社会教育フォーラム in 佐世保）

テーマ：楽しい学びを伝え
知り学び、創り合う

日時：令和8年2月7日(土)

13時00分～

場所：清水地区コミュニティ

イセンター

●東彼ブロック

東彼杵郡社会教育委員連絡協議会研修会

テーマ：地域づくりと社会

教育委員の関わりを考える

日時：令和8年1月30日(金)

15時00分～17時00分

場所：川棚町中央公民館

●島原半島ブロック

令和7年度島原半島社会教育連絡協議会・役員会・総会・研修会

日時：令和7年8月5日(火)
14時00分～

場所：島原市立有明公民館



しゃくなげは、「石南花」と書く。大きくて派手な花びらが特徴で気品ある美しさから「花木の女王」と呼ばれている。



花言葉は「威厳」「警戒」「危険」「荘厳」など。

山の奥地でしかみられない花、葉には毒があり簡単には近寄りがたい花であるため「高嶺の花」という言葉の由来にもなった。